



<p>(2) 島根原子力発電所の訓練用設備を用いた異常の予兆監視の実証実験</p> <p>平成24年10月からは、島根原子力発電所の訓練用設備（ポンプや電動機等）に軸受の損傷やキャビテーション等の故障を模擬的に発生させ、その異常状態を早期にシステムで検出する検証試験を行った。</p> <p>その結果、早期から異常の兆候を捉えることが確認できた。</p>	<p>加えて、検証結果の信憑性を確認するとともに、データ解析の信頼性を向上させるため、（財）電力中央研究所の設備を用いた検証試験を実施した。</p> <p>上記実証試験の結果、故障予兆監視システムの活用により、早い段階で異常を予兆として検知できることや異常発生の原因等を推定するための情報が得られることがわかった。</p>
<p>4. 今後の展望</p> <p>本年の6月下旬から島根原子力発電所2号機において、故障予兆監視システムを導入しシステムの有効性を確認していくとともに、引き続き、検知感度等の性能向上に関するチューニングを行いながら、さらに開発を進</p>	<p>めてまいりたいと考えている。</p> <p>故障予兆監視システムの有効性が確認された後は、運転員に対するプラント監視支援システム、保修員に対し設備診断技術と組み合わせた保全対象設備の状況把握システムとして活用できるものと考えている。</p>
<p>5. 最後に</p> <p>今回紹介した「故障予兆監視システム」と、以前紹介した平成23年から導入している「統合型保全システム（EAM）」および設備診断技術を活用することで島根原子力発電所の各設備の信頼性が向上し、一層安全で、かつコストパフォーマンスの高い発電所にできるものと確信している。</p>	<p>今後も、3.11で学んだように安全対策を講じるだけでなく、我々は新たに追加設置した機器を含め発電所設備全てに対し適切な保全を行い維持管理して行くとともに、訓練等を通して発電所設備を確実に運用し、更にはPDCAを廻し発電所の安全性向上を追求していく所存である。</p>

[保全学会会員 K.M]